

コンプライアンスの徹底

NECは、1899年の創業以来、お客さまをはじめとする社会からの信頼を礎に事業活動を進めてきました。健全で透明性の高いガバナンス体制のもと、役員から従業員に至るまで、一人ひとりがコンプライアンスを最優先にして、法令遵守のみならず、社会通念や一般常識に照らして適切な行動を日々実践しています。「ガバナンス／コンプライアンス」は、ESG視点の経営優先テーマ「マテリアリティ」のひとつであり、私たちは、コンプライアンスをNECの企業文化にしていきます。

各組織の長がオーナーシップをもってコンプライアンスを推進

当社は従来、コーポレート部門が主導して各部門におけるコンプライアンス施策を実行していました。

当年度からは、役員・従業員の一人ひとりがコンプライアンスを自分事として強く認識し、「NECグループ行動規範」に基づく行動を日々実践する文化を醸成するとともに、部門ごとに異なるリスクへの対応をより強化するため、部門長が主体性と責任感をもって部門に最適な施

策を検討・実行する方針へと変更しました。

リスク・マネジメントとしては、リスク管理実態調査や内部監査の結果から、毎年「重点対策リスク」を抽出しています。当年度は、「個人情報保護に関わるリスク」「贈収賄に関わるリスク」「競争法違反に関わるリスク」「不適切な原価計上に関わるリスク」を選定し、対策を行いました。

責任ある調達の実践

NECでは、社会的責任の国際ガイドライン規格ISO26000や持続可能な調達の国際規格ISO20400をもとに、「NECグループ調達基本方針」「CSR調達ガイドライン」を策定し、調達取引先とともに、社会における重要課題と事業が社会に及ぼす影響についてともに学びながら、より良いサプライチェーン構築に向けた取り組みを続けています。

サプライチェーン全般にわたって十分配慮したサステナブル調達が行われるよう、前述の方針やガイドラインをベースに、調達取引先に要求事項を伝達し、その遵守状況や取り組み状況を確認した上で、必要に応じ適切な改善施策が講じられるところまでフォローしています。この一環として、当年度は、日常的な調達取引先訪問時に、サステナブル調達の要求事項を点検し、その記録を蓄積する取り組みSupplier Visit Record (SVR) を始めました。

創業からの品質文化を継承

品質の維持・向上も、ガバナンス／コンプライアンスの取り組みのひとつです。

当社は、1946年に品質管理を導入し、1965年にZD運動（Zero Defects）*1、1972年には、全社で7つ*2のQを高めていくクオリティ作戦、1981年にSWQC*3を始め、全社を挙げて品質向上に取り組んできました。現在も、製品の安全性・品質向上に向けた実践教育や、リスク

の高いプロジェクトに挑戦し完遂・リカバリーしたチームを表彰する制度を設けるなど、安全・安心を実現するための人材育成にも積極的に取り組んでいます。

- *1 従業員一人ひとりの自発性・熱意を喚起させ、創意工夫により仕事の欠陥をなくし、コストの低減、製品・サービスの向上を目的とする運動
- *2 マネジメント、製品・サービス、人間のbehavior、職場環境、地域社会との関係、業績、企業イメージ
- *3 Software Quality Controlの略。ソフトウェアの総合的品質管理活動

詳しくはサステナビリティレポート2019「コンプライアンスとリスク・マネジメント」「公正な取引の推進」「サプライチェーン・マネジメント」「品質・安全性の確保」をご覧ください。